JFPC NEWS vol. 1

日本外交政策学会　ニュースレター　　２０２３年１月１０日発行

ー 新年の御挨拶 ー

理事長　川上高司

明けましておめでとうございますー。

今年2023年は「癸（みずのと）卯（う）」の年であり、癸は、十干の最後の要素で陰陽五行説はで水の陰と言われています。「兎」年は、景気が上向きに跳ね、回復すると言われていていますが、一方で国際情勢も激しく変化することになります。特に、台湾危機がま近かに迫った日本にとり戦後以来の国家存亡の危機となるでしょう。

人類は「グレート・リセットの時代」に入り、すべての価値観や地政学的な変動が次から次へと隆起しています。まさに、2023年は「鳶目兎耳（えんもくとじ）」の年になるでしょう。鳶の目は遠くのことまで目ざとく見つけ、兎の耳はささいな音も聞きもらさないような情報収集能力が勝敗を決します。ウクライナ戦争をみてわかるように情報戦が中核をしめています。それに認知戦やサイバー戦争、ドローン攻撃というオールドメイン（全領域）で戦争が行われる時代となっています。その飛び交う情報の中で真の情報を的確に分析することが生死を分かつ要となります。

『孫子の兵法』には「敵を知り、己を知れば、百戦して殆（あや）うからず」（謀攻編）とあり、敵の実力や現状をよく把握し、自分自身のことをよくわきまえて戦えば勝利できるとあります。ナポレオンが『孫子』を座右の書にしたことは有名です。また、『史記』では、「柏挙の戦い」で呉の軍師であった伍子胥（ごししょ）が持つ情報が大きな勝因となって、呉が勝利をしたことを論じています。

日本の名だたる政治家はブレーントラストを抱えました。近衛文麿総理の昭和研究会（中心人物、後藤象三郎）、吉田茂総理の金鶏学院(同、安岡正篤)、桂太郎総理の満鉄調査部（同、後藤新平）、中曽根康弘の世界平研究所（同、佐藤誠三郎）などがあり、歴代の名総理はこれらのブレーントラストを使い、総理の道を追求しました。

日本は今、戦後最大の危機に直面しています。この危機を乗り切り、日本再生を目指すブレーントラストが日本外交政策学会です。当学会の特徴は国政を担う国会議員の方々がポリティコ・ゲームに参加し専門家や一般人と政策論議を展開することです。

孟子は、戦には「天の時、地の利、人の輪」の３つの重要な条件があるとし、「天の時は地の利におよばない、また、地の利は人の輪にはおよばない」と述べています。

日本外交政策学会は、「日本を再生」をめざす同志の方々の結束で昨年７月に発足した学会です。学会としては初めて学者や専門家のみならず、政治家、マスコミ、財界、学生から一般の方まで幅広く、多くの方に参加していただき、新たな日本を作っていくことを目指します。地政学的大変動が起こっているこの時期に我々は「天の時」がきたと確信し、永田町の議員会館や大学などの「地の利」を得て、超党派の議員や専門家に加えた一般の方々と「人の輪」をつくり、日本存亡の危機を乗り越える天命があると確信しております。皆様のご支援に感謝いたします。

ー 第一回会議レポート ー

日本外交政策学会（ＪＦＰＣ）は昨年11月14日、衆議院第二議員会館で「『台湾有事』における日本危機への対処」という問題設定のもと、グレーゾーン事態に対応する知見を得るため、日本が中国より「超限戦」（ハイブリッド戦）を仕掛けられた事例に絞って、シミュレーションを行った。参加者は超党派の国会議員、学者・専門家、自衛隊OB、マスコミ関係者等の約４０名である。ポリミリゲーム（政治・軍事シミュレーション）では参加者が関係各国に分かれロールプレイを行う。この手法は１９５０年代に米国のランド研究所で開発され、政策立案手段として米国防総省を始め、欧米の政府・研究所では盛んに行われている。

第一回会議では、国会議員をはじめとする参加者は日本、米国、中国、台湾の４チームに分かれ、それぞれ各国の首脳や閣僚の役割を分担した。

今回のポリミリゲームでは、中国軍による台湾封鎖から、アメリカが日本と台湾に武器支援を行うウクライナ型戦争のスタートまでの事例についてシミュレーションを行った。最終的には、米国チームと中国チームの間で合意が形成され、台湾有事を回避する結果に終わった。

今回のポリミリゲームからは、主に２つの成果を得ることができたと言える。１つは、「日本がいかに無力か」という事実がまざまざと明らかになったことである。各国の首脳を務めた国会議員たちは「日本一国では何も決められず、他国に働きかけるしかなかった」「日本の意見が米国や中国を動かすことはなかった」「米中は日本の頭越しに事態を進めていく。そのリスクを実感した」などと振り返り、参加者全員が危機感を強めた。

もう１つは、台湾有事を回避するヒントを発見したことだ。中国チームに参加した専門家は、「中国チームでは在台中国人、在日中国人の保護について議論したが、数十万人の在留中国人を本国へ避難させることは非現実的だ。各国とも自国民の保護について議論し、お互いに交渉したところから政治的決着を模索し、事態が鎮静化へ向かった。このことは、今回のポリミリゲームの教訓の一つだろう」と評価した。今後、台湾有事をめぐる議論の中で「自国民保護」は重要な論点になるだろう。

かくしてＪＦＰＣの第一回会議は盛会のうちに終了した。第一回ポリミリゲームの詳細は近々正式に公表する予定です。乞うご期待！

新春のご挨拶

事務局長 木村 勝

令和４年は、当学会立ち上げの年として、慌ただしく過ぎていきました。７月の学会設立に続き、１１月には、台湾有事のシミュレーション開催。並行して会員募集に尽力してまいりました。お蔭様で、日々新規入会希望のご連絡を頂いております。新年からは、会員の更なる拡大はもとより、会員の皆様への各種情報提供、事業への参加ご案内など、事業充実に努めてまいります。当学会ホームページ（https://jfpc.site/）を是非ご覧頂き、ご活用いただければ幸いです。今後共、会員の皆様のご指導ご鞭撻並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。　本年の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、令和５年新春のごあいさつとさせて頂きます。

発行: **日本外交政策学会**
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-22-7-4F
Tel: 03−6786−2459　Eメール: info@jfpc.site
ホームページ：https://jfpc.site/